

1. 2024年度事業実績報告

(1) 事業の概要・実績

2024年度は、コロナ過前の日常が戻った1年であったが、別の課題として物価の高騰が経営に大きく影響する年となった。また、3年に一度の報酬改定が行われたが、3年間の物価上昇に追いつかないものでもあり、職員給与制度の全面見直しが出来ず、ベースアップのみの実施となった。次年度も引き続き給与制度の改定に取り組む。

地域貢献として、恒例の納涼大会には太陽の家全体で約3,300人の来場があり一昨年に引き続き盛大なものとなった。また、新規企画として神楽祭りやeスポーツ大会を開催し、利用者を対象としたBBQやピザパーティもチャレンジ企画とし、コミュニケーションの場を広げた。太陽ミュージアムの来館者は約7,900人で昨年より800人の増となったが目標達成はできなかった。学校関係や各県の民生委員等の団体へさらにPRすることが必要と思われる。

就労支援関係では、別府エリアの就労移行支援の利用希望者が増え、定員オーバーのため待機状態となっている。逆に就労継続支援A型、B型の利用者は減少傾向である。愛知エリアは一般企業にステップアップしての就労支援A型、B型の利用者減で、次年度4月には補充できる状況である。京都エリアは就労継続支援B型が定員オーバーの利用者増となっている。就労継続支援B型については、各地域の人口の変化が影響していると思われる。作業面では、2023年度に比べ全般的に好調であり、就労継続支援B型は全般的に132万円の黒字収支で終わることができた。しかしながらものづくり部門は、下期より物価高騰の影響を受け始めており、今期の黒字を楽観視できない状況である。今後は事務的な仕事やAIを活用した仕事を導入したい。2024年度は、別府10名、京都5名、愛知13名、障害者就業・生活支援センターから52名、計80名が社会復帰した。(A型移行も含む)

介護支援関係では、IT機器導入・強化するため、ゆたかとゆうわのネットワーク環境の整備を実施し、ゆたかにはケアカルテ・インカムの導入とaamsの増設。また、ゆたか・ゆうわ・広寿苑ともに利用者の見守りカメラを共有スペースに設置した。IT機器の導入により更なる職員の負担軽減、利用者の健康管理や事故の早期発見が出来るようになった。また、介護員と看護師は力量表を使ったスキルアップ教育を開始したことで利用者サービスの向上に繋がたい。ただし、課題である介護職、看護職の確保については、十分な解決策が見つかっていない状況である。

今後の事業計画を進める上での大きな課題として、物価上昇や人件費アップによる経費負担増が挙げられる。その中でも工事関係の高騰が一番大きな課題であり、昨年度は大規模工事の25年計画を作成したが、どのように資金を充てていくのかを計算し、如何にお金を貯めながら使うかをコントロールすることが重要である。2025年度は創立60周年を迎え、1年を通じて地域ぐるみで楽しむイベントは計画している。今後も地域との繋がりと発展を盛り込んだ事業計画を考えたい。

主要事業

【法人本部】

① 創立 60 周年記念行事の企画（法人：経営企画）

記念イベント検討委員会を立ち上げ、年間を通じて行う記念行事を決定した。年度内には利用者、従業員、職員を対象に記念ロゴを公募し、48 点の応募作品の中から優秀賞 1 点、佳作 3 点を選定した。

② 太陽ミュージアム見学者数 目標：11,000 人以上（法人：経営企画）

年間見学者数は 7,869 人と、前年の 7,059 人を上回った。コロナ収束に伴い海外からの見学者も増加している。納涼大会での無料開放や 11 月に「さわって楽しむユニバーサルアート展」（来場者 819 人）を開催したことが見学者の増加に貢献した。

③ 階層別研修体制の再構築（規程の制定）（法人：経営企画）

社労士からのアドバイスを受け、階層別研修の実施方法やカリキュラムの検討を行い、2025 年 4 月 1 日付で「教育研修規程」を改正した。次年度より、規程に沿って試行しながら、さらにブラッシュアップを図っていききたい。

④ 介護福祉士養成校修学者への奨学金制度の活用（法人：経営企画）

太陽の家へ見学に来た大分南高校、佐伯豊南高校の生徒に対して時間を取って制度を説明し、奨学生を募集したが申請には至らなかった。今後も引き続き、学校訪問や施設見学での来訪等の機会を利用しアナウンスしていききたい。

⑤ 施設整備積立金 目標 3,000 万円以上（法人：経営企画）

目標額には届かなかったが、2,807 万円（別府分）の積立となった。当初予定していた積立資産取崩額が減ったことで、施設整備等積立資産の累計金額は当初予算よりも 5,480 万円増加し 162,101 万円となった。

⑥ 給与制度改正案策定・・・2025 年度運用（法人：経営企画）

上期に経営企画課と各拠点の課長によるプロジェクトを立ち上げ課題の整理、改正の骨格をまとめた。結果的に大幅な改正とはならず、年度途中での処遇改善の制度改正もあったことから特例交付金手当の廃止と基本給のベースアップを実施した。なお、(株)川原経営総合センターに賃金分析を依頼したところ、職員の賃金水準は、生計費及び他法人の平均値と比較し適正水準であり、短期的・抜本的な制度の見直しの必要性は必ずしも高くないという分析結果であった。

⑦ 資金運用の検討・開始（法人：経営企画）

2020 年 4 月以降、新たな資金運用は行っていないが、物価高騰と今後の建物の建替え及び維持管理に対応するため、資金運用の再開について理事会・評議員会で審議した。出された意見をもとに経理規程、資金運用規程を一部改正した。次年度からの日本国債での運用開始が承認された。

⑧ 大規模工事 25 年計画の作成（法人：D X・管理）

法人全体の建物について、25 年間で必要な大規模修繕と建替えに必要な資金と紐づけて計画案を作成した。次年度以降一部見直しを図りながら、その精度と実現性を高めていききたい。

【別府本部】

① 短時間雇用の拡充（別府：別府工場）

短時間勤務を希望する精神障害のある人のニーズに応え、在職中の 3 名を時短契約へ

変更。今後は新規採用に繋げるため、短時間勤務可能な職場であることの発信と短時間業務の切り出しを進め、受け入れ体制を整える。

② 工賃評価の見直し（別府：B型 継続）

職能評価せず一律の工賃を支払う制度について就労支援部会にて問題提起を実施したが、自立支援協議会の審議事項までは至らず。実作業においては見直した変更案は作成できたものの実施には至らず。25 年下期より実施できるよう必須事項で進める。

③ 就労アセスメント方法の確立と実施（別府：B型）

評価の客観性・公平性の向上、法人内で同じ課題認識による支援の継続性を確保する目的で A 型、B 型、移行で共通使用できるアセスメント方法確立は完成には至らず。次年度に完成できるよう、有識者のアドバイスも受けながら引き続き取り組む。

④ 新規作業の開拓

別府工場は別府市からの PDF 化作業（事務作業）を受注する予定で進めていたが、市の予算が通らずペンディングとなる。別途、新規事務作業の開拓を行い、次年度はそれに取り組む。

また、ホンダ太陽より新規作業を B 型で取込む調整を行い、次年度に立ち上げ予定。

⑤ 部品管理システム業務の開始（別府：別府工場 倉庫部門）

委託元（ソニー・太陽）の部品が 3 拠点（別府工場、外部倉庫、ソニー・太陽㈱）に点在しており、一元管理を目的とした部品受入システム移管の計画は思うように進展せず。次年度は別府工場（倉庫管理）のエリアを広げ、一元管理を目指す。

⑥ リサイクル事業の拡大（別府：別府工場 リサイクル部門）

上期は順調に受注があったが、銅の建値の影響により下期以降は受注が激減。委託元である日本マテック㈱からの受注見込みが立たず、12 月にて契約終了。新たな取引先の開拓を行った結果、次年度より別会社から同じリサイクル作業を再開できる見込み。

⑦ メンテナンス事業の開始と外部職域拡大（別府：サンストア）

既存の B 型作業から A 型作業（主に企業の清掃）を切り出し、2 名の利用者で事業開始。切り出す際、A 型単価で企業と価格交渉を行い了承を得ることが出来たため、事業収支は黒字で運営できた。しかし、3 名の利用者採用目標に対して 2 名しか確保出来なかった。

⑧ A 型・一般企業への就職 10 名以上（別府：就労移行）

リワーク 1 名を含め、一般企業の就職者 10 名を就職させることが出来た（関連企業 7 名、その他企業 3 名）。現在、就労移行は定員 3 名超過と 2 名の待機者がおり、今後、待機者を解消し就職者数を増やすために大分の分場を単独施設にする検討を行う。

⑨ e スポーツ訓練の立ち上げ（別府：就労移行）

e スポーツ会場である e BARLEY の立ち上げの実施。見学者への体験会や訓練以外の場面で施設利用者の余暇支援を行った。今後は利用者確保に繋がる積極的な活動を効果的に行い、潜在的な利用者の獲得を狙う。

⑩ オープンキャンパスの実施（別府）

上期 73 名、下期 31 名 計 104 名の参加者（うち利用対象者 37 名）。2023 年度の参加者から実習に繋がった方は 9 名であった。また、企業向けオープンキャンパスには 37 社が来所し、介護サービス科の新規作業（黒木記念病院）の受託に繋がった。

⑪ 作業会計、施設会計の黒字化（別府：A 型、B 型、就労移行）

作業会計は B 型で 1,323 千円、A 型で 3,685 千円のプラスとなった。

施設会計（資金収支）ではトータルで▲18,902 千円となった（施設整備等による支出を除くと 41,842 千円）。第 1,第 2 WS は定員充足の取り組みの努力が足りなかった。

【大分広域本部】

- ① オール太陽職場対抗スポーツ大会実施（大分広域：健康支援）
就労支援課との協同企画として 12 月 7 日（土）に卓球バレー交流大会を開催した。就労継続支援 B 型の作業科 10 チーム、関連企業 6 チームの計 16 チーム、109 人が参加し、交流を図った。B 型の機材科 A チームが優勝した。
- ② ICT 化の促進（大分広域：ゆたか・ゆうわ・広寿苑 継続）
ゆたかでは、下期にケアカルテとインカムを導入した。導入にあたっては既存のネットワークとは別に Wi-Fi 環境を整備し運用できるようにした。ゆたか、ゆうわ、広寿苑では怪我や事故等の確認・検証を目的に見守りカメラを設置した。
- ③ 看取り体制の充実（大分広域：広寿苑 継続）
看取り介護加算算定のため、指針の見直し、家族の同意書取り、職員研修などの体制整備を図った。実際の加算の算定は対象者がいなかったため未実施となった。
- ④ 近隣で生活する OB/OG へのサポートの継続（大分広域：健康支援）
OB/OG へのヒアリング並びに個別相談に対するサポートは継続して行っている。複数人が集まっただけの交流機会は限られていた。
- ⑤ 各職種の力量表からの人材育成の実施（大分広域：ゆたか、ゆうわ、広寿苑）
介護員の自己チェックと指導者チェックを行い、不安点についての研修や個別面談、力量差を埋めるための教育を実施した。他職種への展開が次年度からのテーマである。

【愛知京都】

- ① 新規実習先の開拓 2 社（愛知：就労移行）
今年度新規実習先として 1 社調整を行ったが実習には繋がらなかった。企業訪問 5 社（蒲郡信用金庫、デンソーブラッサム、トヨタループス、アイシンウェルスマイル、プリムイソベン）を実施しデンソーブラッサム 1 名が採用された。
- ② PC リサイクル作業、給食業務の開始（京都：B 型）
オムロン京都太陽より PC リサイクルの清掃工程を受託した。また給食業務は希望者がいなかったため 2025 年度に延期となる。
- ③ A 型・一般就労 11 名（愛知・京都：就労支援）
一般就労 7 名、A 型 11 名となった。（デンソーブラッサム、幸田町役場、蒲郡信用金庫、久世児童館）
- ④ オープンキャンパスの実施（愛知、京都）
愛知：今年度は 5 回実施し、参加者は 128 名で 5 名が利用に繋がった。
京都：今年度は 4 回実施し、参加者は 47 名で 1 名が利用に繋がった。

2024 年度主要施設整備		(千円)
《別府》	さくら寮跡地の通路及び舗装工事	16,200
	第 3 作業棟屋上配管更新工事	3,128
	別館・コミセン外壁塗装工事	32,582 (補助金 14,148)
	第 1 作業棟空調機ラインポンプ 及びインバータ取替工事	2,090
	第 1 作業棟キュービクル更新工事	4,070
《日出》	福祉ホームキッチン・トイレ改修工事	5,177
	固定式リフト ミクニ マイティエースⅡ	1,698 (補助金 1,189)
	サンコミ大神合併処理浄化槽 空気配管更新工事	2,475
《杵築》	介護ロボット aams.(見守りシステム)購入	2025 年度へ延期
《愛知》	食堂棟改修工事	67,164
	工場棟トイレ改修工事	118,665
《京都》	自家発電機更新	2026 年度に延期
	通路不陸工事	1,496
	食堂空調工事	3,300